

社会医療

◆ 1. 2022 年度研究成果の報告

【key words】医療倫理、医事法学、コロナ対策、臨床、感染症法

【Abstract】

本分科会は患者さんの医療倫理や医事法学(医療法、柔道整復師法、介護保険法等)を学ぶための分科会です。日本や世界の医療倫理の動向、日本の医事法学の改正の情報を収集し、毎年の社会医療分科会で解り易く報告してきました。2022 年度 学術大会ではコロナ禍で 2025 年問題である医療・介護福祉をめぐる大きな課題の中で本人同意なしに第三者に提供できない「要配慮個人情報」の取り扱いについて柔整師がかかわる扱いについて発表でした。学術発表の際に患者さんが特定できないように細心の注意を求められております。新型コロナウイルス感染症の流行が法医解剖の現場に深刻な影響を与えました。コロナ流行中と流行前の比較を行い、コロナ流行中は死後経過時間の長い事例の増加と共に、死因不詳の割合が顕著に増加と、この傾向は孤独死の事例も同様との発表でした。2023 年 2 月 分科会(単独)研究会 1) 新型コロナウイルスが 5 類以降による社会に与える影響について情報交換をしました。2) 社会福祉士 板垣みか氏は透析病院の医療・多職種連携の課題について知見から発表されました。

◆ 2. 医療が知るべき LGBT 等の認識

九州保健福祉大学生命医科学部教授 前田 和彦

【key words】LGBTQ、CD-11、性別不合、トランスジェンダー、患者のストレス

【Abstract】

【目的】「国際疾病分類」改定版(ICD-11)が了承され、性同一性障害が「精神障害」の分類から除外され、「性の健康に関連する状態」という分類の中の「Gender Incongruence (性別不合)」に変更され、2022 年から施行されたことから、臨床の場での認識の変更を理解すること。【本論】日本における性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律による性同一性障害(GID: Gender Identity Disorder)とは、従来の認識では生物学的な性と性の自己意識が一致しない状態のことをいい、WHO が定めた国際疾病分類であるにも掲載されている医学的疾患であるとされてきた。しかし 2019 年の世界保健機関(WHO)の 5 月 25 日の総会で「国際疾病分類」改定版(ICD-11)が了承され、性同一性障害が「精神障害」の分類から除外され、「性の健康に関連する状態」という分類の中の「Gender Incongruence (性別不合)」に変更され、2022 年から施行された。本法も見直し変更を視野に入れた形で国際的認識を理解すべき時期に来たと言える。そして 臨床現場での患者のストレスとして、名前と外見のギャップ、何度も確認される等、様々なことが指摘されている。【結論】2023 年 6 月 23 日には「性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律(LGBT 理解増進法)」が施行された。この法律は、性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性を受け入れる精神を涵養し、もって性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に寛容な社会の実現に資することを目的としている。どのような臨床の現場においても生命倫理や法も人権への配慮が中核であり、柔道整復師の施術にも同様の認識と理解が必要と思われる。

◆②超音波画像診断装置を使用した定量的評価を行う研究手法

帝京平成大学 ヒューマンケア学部 柔道整復学科 川村 茂

【key words】画像解析ソフト、半月板損傷、羽状角

【Abstract】

超音波画像診断装置(以下、US装置)は、簡便、非侵襲、リアルタイムに観察できるなどの特徴を有し、柔道整復領域における客観的画像観察法として普及しつつある。さらにUS装置を使用した研究発表も多くみられるようになってきている。US装置を取り入れた研究の注意点としては、画像の再現性が困難であるという点があげられる。とくに異方性による画像輝度の変化については、考慮する必要がある。われわれは、過去に超音波画像をしようして定量的に評価する研究を行ってきたが、上記の問題点を十分に考慮した上で研究手法をデザインしてきた。その研究手法について、いくつか紹介する。1. ヒト筋・軟部組織損傷治癒過程の定量評価 筋損傷治癒過程をUS装置で経時的にスキヤニングした。さらに、保存された画像の経時的変化を画像解析ソフトにより解析することで、筋損傷治癒経過を数値定量的に評価することを試みた。画像解析ソフト上での評価方法には、画像の複雑さを数値的に表現できるフラクタル次元解析を使用した。2. 膝半月板損傷における検出方法の検討 一般的に行われている半月板損傷の徒手検査法は、感度が低く、微細な損傷を検出可能な場合も多い。半月板損傷の詳細な画像診断には、MRIが用いられているが、簡便な検査方法ではない。そこでわれわれは、US装置を使用して、損傷しやすいとされる内側半月板の中節から後節にかけての微細な損傷を含む各病態を、簡便かつ高率に検出できる方法について検討することとした。3. ストレッチング様式の違いが筋の状態および運動機能におよぼす影響 ストレッチングには筋を弛緩させ関節可動域(ROM)を拡大する効果を有することが知られている。しかしながら、その反面、筋力発揮などを低下させることが報告されている。そこでわれわれは、下腿三頭筋に静的ストレッチングおよび動的ストレッチング行わせた際、筋の性状にどのような変化が生じているのかを観察し、さらに、その変化の生じたモデルにおいて、筋・運動機能にどのような差異が生じるのかを検証した。筋の性状変化を定量的に表現する方法として、US装置によって観察された下腿三頭筋(羽状筋)の羽状角の変化を用いることとした。

◆③エコー画像を利用した筋力増強訓練の指標研究の可能性

帝京大学 医療技術学部 柔道整復学科 櫻井 庄二

【key words】筋力増強訓練、筋厚、筋断面積、羽状角

【Abstract】

エコー画像を用いた研究では、症例によるレントゲンとエコー画像との比較検討や外傷の経過観察におけるエコー画像変化などの症例研究が多くみられる。その他の研究では、エコーの計測機能を用いた様々なデータ解析による統計調査研究も多くみられる。柔道整復師が行う業の中で、外傷の固定により衰えた特定の筋を増強訓練することで日常生活への早期復帰や再発防止を目的とした筋力増強訓練を行なうことは少なくない。そこで、エコー画像により筋力増強訓練の成果を様々なエコー画像測定法により評価した。今回、足関節捻挫における足関節の内転角度に影響を及ぼすとされる長腓骨筋の筋力増強訓練成果を①筋厚、②筋断面積、③筋羽状角に着目してどの様に変化するかを試みたので報告する。

◆ 3. 変革時代から見えるジェンダー・医療・法律の諸問題について

国土館大学大学院研究科長 森田 悦史

【key words】生殖補助医療、人権、ジェンダー、婚姻、出自の知る権利

【Abstract】

【目的】今回の報告では、国際社会の変革から見えてくる医療(生殖補助医療、AID、AIH など)、法律(出産・出自を知る権利、人権・婚外子・)などの問題を、法的な視点に絞って内容を明らかにしたい。【本論】少子高齢化の問題は、今日国家として避けては通れない重要な課題である。2016年以降人口は急速に減少し、22年度の出生数は80万人、今日一人の人が生む合計特殊出生率は1.26%である。50年先の日本の人口は7千万になるとの予測もある。一方、令和3年の高齢化率は、28.9%で3人に1人が高齢者である。特に、少子化の背景は、国内の若い世代の経済状況や雇用環境の悪化、婚姻率の低下、国家の政策的支援など多くの要因が考えられるが、国際的にはジェンダー問題、SDGS、移民受け入れの問題など、国民の意識改革も求められる。一方、高齢者の増加は日本の経済成長、平均寿命の延び、医学の進展などが考えられる。世界は今ネット社会となり、多くの情報がいち早く手に入れることができるボーダレスの時代となったのである。国際的にみても賃金を含めた世界的な雇用の流動化、スキルアップの上昇、国内外の結婚や出産といった家族のあり方の変化など、若い世代と年配者との間にジェンダーギャップも生じており、これまでの価値観では理解できない、ライフスタイルの多様化も進み、新しい時代に突入している。【結論】今日、若い世代が生きやすい社会とは何か、結婚、出産、育児を含めた将来設計のあり方はどうあるのか、さらには、国家的視点から社会保障制度や子育て支援制度、雇用政策などワーク・ライフ・バランスの向上を図る対策など、国家・社会・地域全体で子どもを育てていくという共通の理解を醸成することが問われている。